

中央放射線部

1. スタッフ (2024年4月1日現在)

部長 (教授)	真鍋 徳子
副部長 (教授)	白井 克幸
技師長	横溝 哲也
副技師長	松崎 仁
診療放射線技師	紙 恭子 横山 和宏 52名

2. 部門の特徴

●設備	
CT装置	3台
MRI装置	3台
一般撮影装置	4台
乳房撮影装置	1台
歯科撮影室	1室
骨塩定量測定装置	1台
X線TV装置	4台
X線ポータブル撮影装置	10台
心カテ装置	2台
IVR装置	1台
移動型X線透視装置	3台
ハイブリッド手術室	2室
救急撮影室 (CT、一般撮影)	1室
ハイブリッドER室	1室
PET-CT	1台
SPECT-CT	1台
放射線治療装置 (リニアック)	2台
治療計画用CT装置	1台

●認定技師

医学物理士	1名
放射線治療品質管理士	1名
放射線治療専門放射線技師	2名
Ai認定診療放射線技師	3名
X線CT認定技師	7名
第一種放射線取扱主任者	2名
磁気共鳴専門技術者	2名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	3名
放射線管理士	1名
放射線機器管理士	1名
画像等手術支援認定技師	1名

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

<CT、MRIの実施件数>

	CT	MRI
2014年	40,552	11,626
2015年	41,392	11,371
2016年	44,352	12,178
2017年	45,208	12,554
2018年	47,003	13,129
2019年	36,290	10,529
2020年	33,673	10,090
2021年	44,018	10,428
2022年	41,938	10,034
2023年	41,611	9,999
2024年	42,688	10,345

<一般撮影、病診連携業務の実施件数>

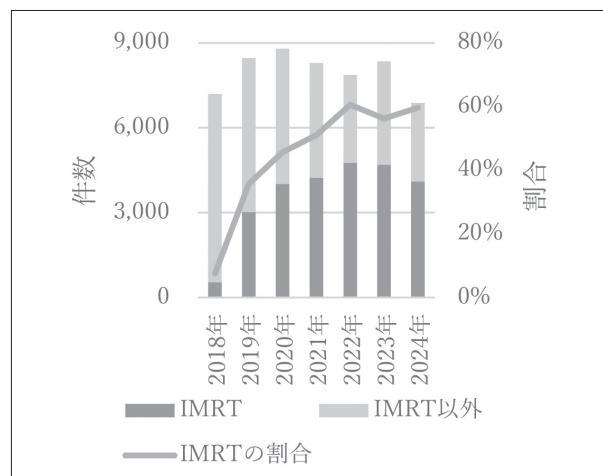
	一般撮影	病診連携
2014年	78,990	13,591
2015年	82,856	14,891
2016年	86,920	15,658
2017年	88,238	16,013
2018年	93,461	18,560
2019年	89,462	19,144
2020年	79,733	10,885
2021年	88,098	12,040
2022年	87,835	13,261
2023年	87,956	13,023
2024年	86,506	13,284

<X線TV、血管造影の実施件数>

	X線TV	血管造影
2014年	2,851	2,714
2015年	2,570	2,661
2016年	2,806	3,019
2017年	3,284	3,173
2018年	3,383	3,404
2019年	3,330	3,367
2020年	2,955	3,198
2021年	2,951	3,256
2022年	3,005	3,125
2023年	3,045	3,159
2024年	2,835	3,585

<ポータブル撮影、夜勤・日直業務の実施件数>

	ポータブル	夜勤・日直
2014年	20,760	19,939
2015年	23,493	20,547
2016年	29,188	23,217
2017年	29,872	24,416
2018年	32,640	27,697
2019年	30,609	28,518
2020年	27,372	23,801
2021年	29,690	26,536
2022年	30,809	27,772
2023年	31,909	27,763
2024年	31,256	28,429



<核医学検査とPET-CTの実施件数>

	核医学検査	PET-CT
2014年	3,229	1,778
2015年	3,334	1,840
2016年	3,423	1,866
2017年	3,211	1,693
2018年	2,938	1,521
2019年	2,912	1,370
2020年	2,899	1,472
2021年	3,073	1,509
2022年	3,345	1,739
2023年	3,411	1,806
2024年	3,593	1,941

<放射線治療（全件数）とIMRTの件数・割合>

	放射線治療の件数	うちIMRTの件数	IMRTの割合
2014年	7,746	-	-
2015年	7,729	-	-
2016年	7,990	-	-
2017年	6,890	-	-
2018年	7,192	543	8%
2019年	8,459	3,017	36%
2020年	8,791	4,015	46%
2021年	8,289	4,231	51%
2022年	7,861	4,762	61%
2023年	8,345	4,691	56%
2024年	6,875	4,100	60%

<定位放射線治療の実施件数>

年	件数
2018年	3
2019年	3
2020年	8
2021年	30
2022年	49
2023年	56
2024年	55

4. 評価と展望

2024年度は核医学部門で旧型のSPECT装置がSPECT-CT装置に更新された。SPECT画像とCT画像の重ね合わせが可能となり、診断能が向上した。また、医師のタスクシフトの一環として、放射線技師が静脈穿刺を開始するなど、変革の年となった。2025年には神経内分泌腫瘍に対する核医学治療を開始し、地域の診療に貢献していくこととなる。

放射線治療部門でも旧型のリニアックが高精度治療に対応した装置に更新された。2024年1月に新しいリニアックが設置され、ビーム調整等を経て5月から稼働を開始した。この間はリニアック1台体制となっていたこともあり、治療件数は前年を下回ったが、IMRTの割合は60%を維持できた。2025年は更なる高精度化を目指し、定位放射線治療の適応を広げていくことが目標となる。